

「パウロに学ぶ共同体の育成」

はじめに

わたしたちが目指しているのは、信仰によって結ばれているキリスト者が共に集い、交わり、分かち合い、支え合うことによって育てられる共同体である。したがって、あくまでも、信仰の次元での体験であり、単なる仲良しグループをつくることではない。

ところで、原始教会における共同体づくりにおいて最も重要な役割を演じた使徒パウロは、まさに実際の体験にもとづいた共同体育成について、極めて貴重な教えを手紙の第一コリント(12.12-31)、ロマ書(12.4-8)、コロサイ書(1.18,24; 2.16-19; 3.15)、エフェソ書(1.23; 4.4-16; 5.23)の中で書いている。以下にその教えを主な項目別に整理してみる。

1. 「キリストの体」である教会

まず、パウロは自分の教会体験に基づいて、教会を「キリストのからだ」というキリスト論的かつ有機的イメージで現す。

・「あなたがたはキリストの体であり、また、一人ひとりはその部分である」(コリントー 12.27)。

・「御子はその体である教会の頭かしらです」(コサイ 1.18)。

このように、教会共同体はその成員によって造りだされるのではなく、キリストご自身によって創りだされるのである。つまり洗礼によってキリストに結ばれた者(マ6.3参照)は、キリストの体に組み入れられ、「キリストの中で」生きるのである。

したがって、共同体育成は、まさにキリストご自身が「キリストの体を造り上げていく」(エフェソ 4.12) ことにほかならない。

2. 「キリストの体」の特徴

(1) 多様性の一致

コリントの教会は、派閥に分かれ分裂していた。その深刻な問題の解決

のため、パウロは共同体における多様性の一致を強調した。「体は一つでも、多くの部分から成り、体のすべての部分の数は多くても、体は一つであるように、キリストの場合も同様である。・・・そこで、神はご自分の望みのままに、体に一つひとつの部分置かれたのです。すべてが一つの部分になってしまったら、どこに体というものがあるでしょう。だから、多くの部分があっても、一つの体なのです」(コリトー 12.12,18-20)。

お互いがそれぞれ違うからこそ、お互いを必要としているのである。なぜなら、共同体の中の多様性は、神の望みだからである。

だから、この多様性の一致こそは、共同体のまさに本質的土台である。したがって、第二ヴァチカン公会議の教会論は、次のように教会を定義している。「教会はキリストにおけるいわば秘跡、すなわち神と人との親密な交わりと全人類一致のしるしであり道具である」と(『教会憲章』1項)。特に、ミサは共同体の一致と交わりを造り出し、それを深め、強めるのである。「わたしたちが神を賛美する賛美の杯は、キリストの血にあずかることではないか。わたしたちが裂くパンは、キリストの体にあずかることではないか。パンは一つだから、わたしたちは大勢でも一つの体です。皆が一つのパンを分けて食べるからです」(コリトー 10.16-17)。

では、わたしたちの共同体の中に、似た者同士の仲良しグループができたり、派閥争いを起こしてしまうのはなぜだろうか。

一人ひとりのキリストとの結びつけが弱まれば、また、お互い同士の結びつきも弱まり、さらに十人十色でお互いがそれぞれ異なるからこそ、お互いを必要としているという自覚も弱まるからではないか。

(2) 小き者、弱き者が必要である

信仰の次元から逸脱すると、たちまち能力主義や強者の論理を持ち込んでしまい勝ちである。あるいは、世間の価値基準によって弱者を切り捨てるような反福音的な関わりを生み出す危険性がある。だから、パウロは、共同体のまさに福音的特徴を強調する。「体の中でほかよりも弱く見える部分が、かえって必要なのです。・・・神は、見劣りのする部分をいっそう引き立たせて、体を組み立てられました。それで、体に分裂が起こらず、各部分が互いに配慮し合っています」(コリトー 12.22,24-25)。

自分たちの共同体におけるお互いの関わり方が、福音的になっているか

常に確認すべきである。

3. 「キリストの体」はどのように育てられるのか

(1) キリストがミサによって共同体を育ててくださる

『われわれの過越であるキリストがいけにえとなった』(コリントー5.7) 十字架のいけにえが祭壇の上で行われる度ごとに、われわれの贖いのわざが行われる。同時に、エウカリスティアのパンの秘跡によって、キリストにおいて一つの体を構成する信者に一致が表され、実現する(コリントー10.17 参照)。すべての人はキリストとのこの一致へと招かれている(『教会憲章』3項)。

ミサこそ、共同体を育てる原動力である。「彼らはキリスト教生活の泉であり頂点であるエウカリスティアのいけにえに参加し、神のいけにえを神にささげ、そのいけにえと共に自分自身をもささげる。・・・さらに、エウカリスティアの集会においてキリストの体によって養われた者は、この最も神聖なる秘跡が適切に示し、見事に実現する神の民の一致を、具体的な方法で表す(『教会憲章』11項)。まさに共同体の交わりと一致は、ミサによって深まり、強められる。

(2) からだの部分は連帯と交わり、相互扶助によって共同体を愛によって育てていく

「キリストにより、体全体は、あらゆる節々が補いあうことによってしっくり組み合わされ、結び合わされて、おのおのの部分は分の応じて働いて体を成長させ、自ら愛によって造り上げていくのです」(エフェソ 4.16)。

(3) 奉仕によって体を育てていく

「こうして、聖なる者たちは奉仕の業わざに適した者とされ、キリストの体を造り上げてゆき、ついには、わたしたちは皆、神の子に対する信仰と知識において一つの者となり、成熟した人間になり、キリストの満ちあふれる豊かさになるまで成長するのです。」(エフェソ 4.12-13)。

教会活動はすべて奉仕であり、この奉仕によって共同体が育てられるのである。

